

国際協力機構(JICA) 中部の研修員に毎日の暮らしを楽しくさせたいという友好的な態度が、わが家のように感じさせてくれた。フィットネスセンター、博物館、市場、ショッピングモールなどへの道案内も気軽にしてくれた。

ナビゲーター

館内食堂が閉まっている時、われわれは喜んでマクドナルドに飛び込み、食事を楽しんだ。到着早々このような案内をしてくれたスタッフに感謝する。

控えめに言っても、JICA 中部の支援態勢は愛知県の 人々の気質そのものだと思

日本への期待 世界各地から

其 165

ありがとう、日本。学びと帰国してから

う。稲武のトヨタケ、ステーションAとあいち創業館、岡崎市のたまご会社太田商店、メッセ名古屋2025、お米のハナノキ、一宮の葛利毛織への視察は、日本人のおもてなしの精神をはっきりと伝えてくれた。驚くほど豊富で啓発的な知識を惜しみなく共有してくれた。

私たちはここで、なにを学んだのだろうか。確かに、マラウイにとって輸出促進は極めて重要であり、特に日本をはじめとしてマカデミアナッツ類の輸出は喫緊の課題であ

マラウイから(下)



研修修了式で全員集合

マカデミアナッツ生産国でもある。2025年の国産マカデミアナッツ輸出総額は2430万米に達し、そのうち13・6%が日本向けだった。輸出量拡大のため、私と同僚のソコさんはマーケティング上の課題、生産上の制約、品質向上の強化を優先的取り組みと位置付けた。

4月開始のマラウイ会計年度では、輸出市場におけるマカデミアナッツの位置付け強化に資源を重点配分する。ナッツの特徴である香りと鮮度、クリーミーな風味を保持

る。わが国はマカデミアナッツを高付加価値産品と位置付けており、現在世界第7位の

しつつ、輸出市場にシームレスな供給を実現するために、物流の最適化に多額の投資がなされるはずだ。日本も含む世界中のマラウイ大使館を活用して、マカデミアナッツの流通のより幅広い地域への拡大を支援する予定だ。

実際、第一の故郷JICA 中部はただの住まい以上の存在だった。事実、この旅は単なる旅を超え、二大陸を越えたネットワークを拡大する機会となった。海を越えて新たな友人、仲間たち、ビジネスパートナーに会う日まで。

【M・チエチヨ、ソコ・クリフォード、リーム中産連】 (月曜日に掲載)